短歌（二十六）

下田　明美

やっぱりね、大卒だったのね
　悔しそうな隠れエリート

路地を出てすぐ路地入る商店街
　親友が住む霧降銀座

久々に、論争したり歌ったり
　２階の部屋でまどろむ友も

本当のパトラを早く探してよ
　困っているのよ、何とかしてよ

窓越に巣雲の山を眺めれば
　天城も見える恋人の道

転んでも転んでもまた転ぶ
　そんなものかな私の人生

久々に友に電話をしてみれば
　料理中なり、時間差あった

我儘を言ってみたり甘えたり
　決裁するのは何時もの私

今までも自分ひとりでやって来た
　　驕れる自分に小さな誇り

夏近し扇風機出して乾拭きす
　　おやつの氷はここで買えない

台風の風に吹かれて枝揺らす
　　ムクゲの花は白と赤なり

台風がやって来ている沖縄に
　　サンシンの音、風雨に耐えて